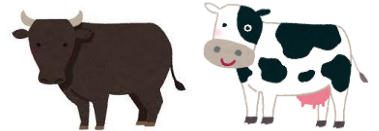


家畜衛生だより

令和8年4月発行 No.1
庄内家畜保健衛生所
庄内地区家畜畜産物衛生指導協会
TEL 0235 (68) 2151
FAX 0235 (66) 2466

～効果を高める入牧準備について～

今年も入牧の季節がやってきました。放牧中の病気や事故を未然に防ぎ、放牧場で健康に過ごせるように準備しましょう！



○放牧馴致

放牧初期は環境の急変により牛の免疫力が低下し易い時期です。放牧初期を無事に過ごせるよう舎外環境、粗飼料に対する馴致を行いましょ。

牛の胃が青草に慣れるには **20～30 日** を要します！

特に、放牧未経験牛で事故が多く認められます。農場でできる限り馴致を行い、放牧に備えましょう。

○除角・削蹄・皮膚病治療

入牧中のけが等がないよう、除角・削蹄は前もって行ってください。また、体表や乳頭周辺にイボなどの皮膚病がある場合は早めに治療し、皮膚病が治癒していない場合は放牧場で他の牛に感染させないように放牧を見合わせてください。

○健康状態チェック

放牧予定の牛は特に注意して観察しましょう。健康状態に問題がある場合は、入牧を見合わせることも大事です。

<放牧馴致の具体例>

30 日前

- 濃厚飼料を徐々に減らし、粗飼料（青草、乾草）を増やす。
- 皮膚病の治療を行う。
- 舎外に出し日光に慣らす。
- 除角、削蹄を行う。

20 日前

- 粗飼料（青草）を徐々に増やす。
- できれば昼舎外に出し、低温に慣らす。

入牧



○放牧効果を最大限得られるよう、早めの準備を心がけましょう！！

裏に続く



～ワクチン接種で牛の呼吸器病や 死流産を予防しましょう～

肺炎等の呼吸器病は、経済的損失の大きい病気の一つです！

- 牛の呼吸器病は、若齢牛で多発し、発育遅延や死亡等の原因となり、消化器病と共に経済的損失が大きい病気のひとつです。
- また、妊娠牛に牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）が感染すると、流産や奇形の子牛が生まれる場合がありますので、注意が必要です。



6種類の呼吸器病を予防するワクチンがあります！

- 牛呼吸器6種混合ワクチンは、牛伝染性鼻気管炎（IBR）、牛ウイルス性下痢（BVDV 1型、2型）、牛パラインフルエンザ（3型）、牛RSウイルス病、牛アデノウイルス病（7型）を予防するためのワクチンです。

自家保留牛や繁殖牛にもワクチンを接種しましょう！

- 費用は1頭あたり2,462円かかりますが、年1回のワクチン接種により呼吸器病の症状を低減できますので、是非接種しましょう。



6種混合ワクチンは、庄内地区家畜畜産物衛生指導協会 事業で接種することができます。

お申し込みは、庄内地区家畜畜産物衛生指導協会
(0235-68-2151：庄内家畜保健衛生所内)
または、かかりつけの獣医さんにご相談ください。